

利益をたたき出すトレードルールの作り方

2. 移動平均線を使う

ここでは、移動平均線を使う事で、第1章で説明した基本戦略に基づくトレードを行う方法を考えることにします。

2-1. 移動平均線の見方

移動平均線は、その向きでトレンド方向を確認することができる極めて有効なツールです。具体的には、次のような見方ができます。

- ◆ 水平傾向の時 ⇒ 保合い
- ◆ 右肩上がりの時 ⇒ 上昇トレンド
- ◆ 右肩下がりの時 ⇒ 下降トレンド

また、その傾き具合でトレンドの強弱も確認することができます。具体的には、次のような見方ができます。

- ◆ 急な角度 ⇒ 強いトレンド
- ◆ 緩やかな角度 ⇒ 弱いトレンド
- ◆ ほぼ横ばい ⇒ 保合い(=トレンドレス)

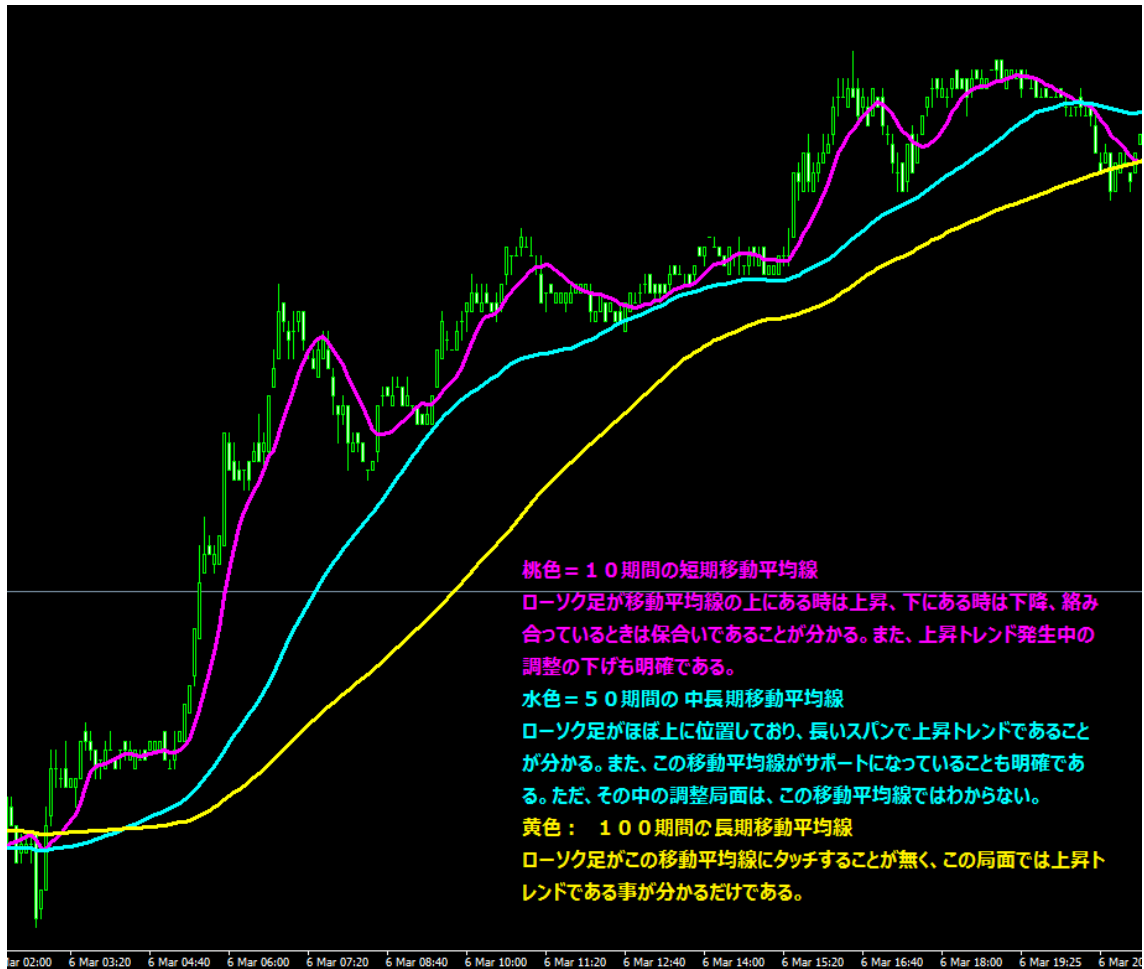
更に、移動平均線を算出する期間を調整することで、短期から長期までのトレンド方向を確認することができます。以下は良く使われる移動平均線の期間です。

- ◆ 5~13期間 ⇒ 短期トレンド(5, 9, 10, 13など)
- ◆ 20~26期間 ⇒ 中期トレンド(20, 21, 25, 26など)
- ◆ 50~75期間 ⇒ 中長期トレンド(50, 52, 75)など
- ◆ 100~200期間 ⇒ 長期トレンド(100, 200など)

一般に、移動平均線の期間を短くするとローソク足に接近し、逆に、これを長くすると、ローソク足から乖離します。

利益をたたき出すトレードルールの作り方

<短期・長期・超長期移動平均線>



2-2. 短期移動平均線を使ったトレード方法(買い)

短期移動平均線が上向き(=上昇トレンド)の時には、ローソク足は、概ね、短期移動平均線の上を推移します。従って、このような時は、次の方法で買い玉を建てるのが望ましいでしょう。

- ① それまでの高値を更新したところで買う(順張り買い)
- ② 短期移動平均線付近まで下がってきた時に買う(押し目買い)
- ③ 短期移動平均線を一旦下回って、その後、再浮上して同線を上抜けたら買う(押し目買い)

利益をたたき出すトレードルールの作り方

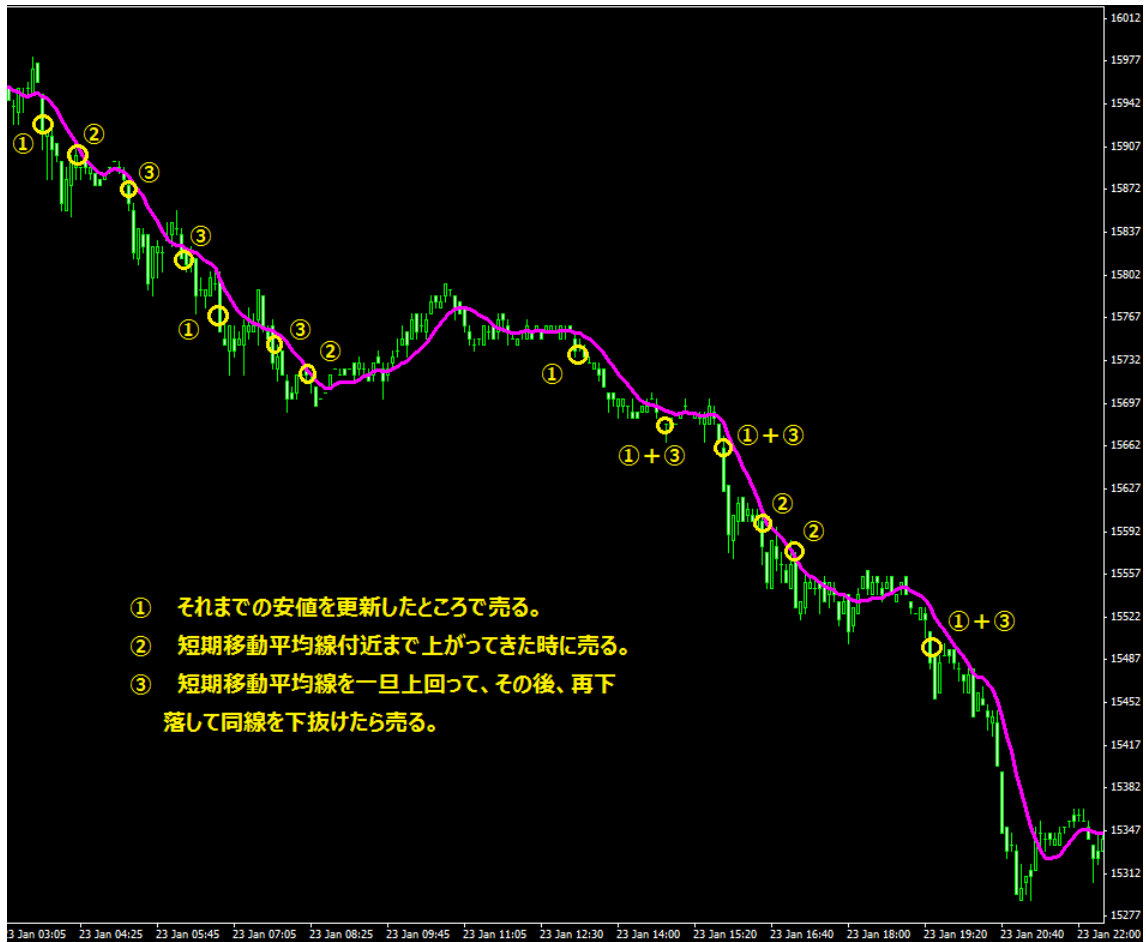


2-3. 短期移動平均線を使ったトレード方法(売り)

短期移動平均線が下向き(=下降トレンド)の時には、ローソク足は、概ね、短期移動平均線の下を推移します。従って、このような時は、次の方法で売り玉を建てるのが望ましいでしょう。

- ① それまでの安値を更新したところで売る(順張り売り)
- ② 短期移動平均線付近まで上がってきた時に売る(戻り売り)
- ③ 短期移動平均線を一旦上回って、その後、再下落して同線を下抜けたら売る(戻り売り)

利益をたたき出すトレードルールの作り方

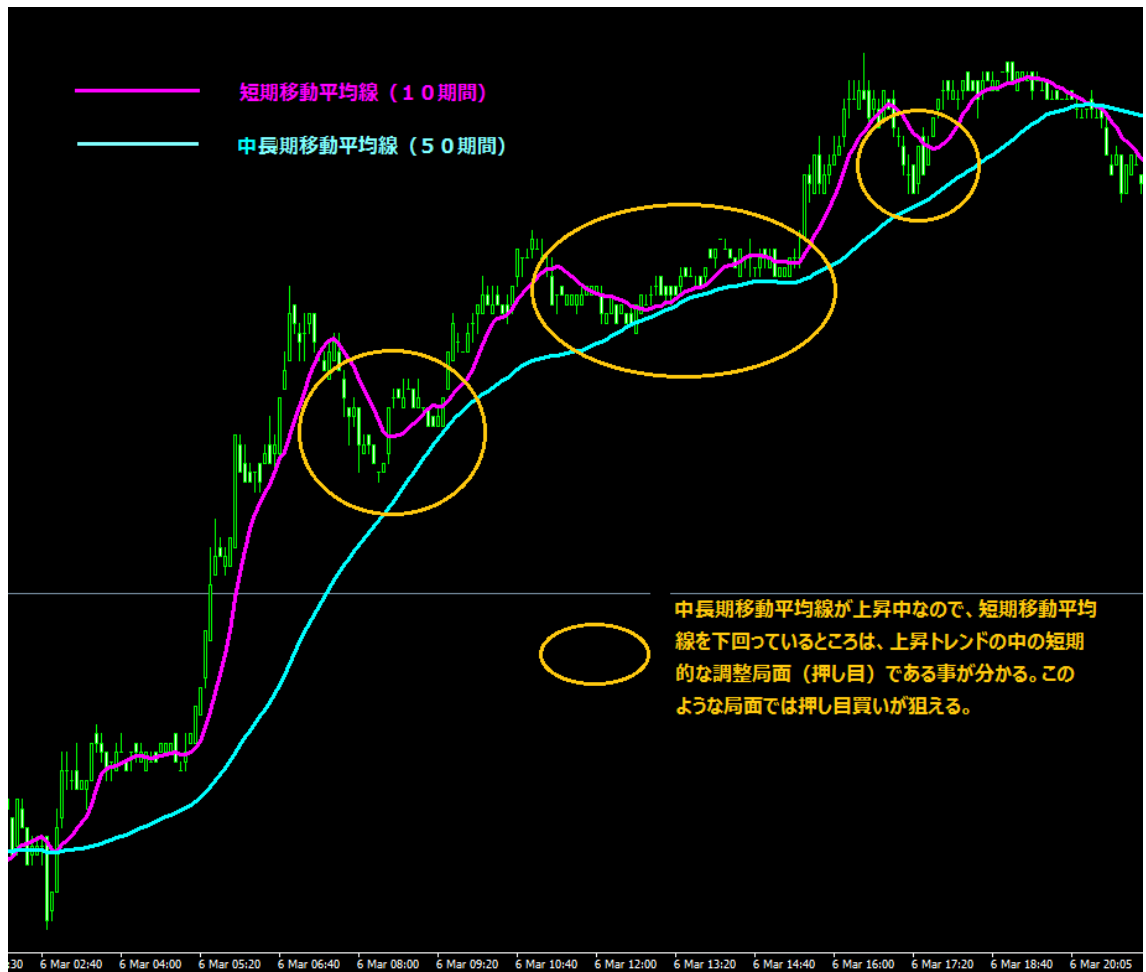


2-4. 2本の移動平均線を組み合わせてわかる事

短期と中期、中期と長期の様に、期間の異なる2本の移動平均線を表示することで、より短期の移動平均線での局面がより明確にわかるようになります。

下のチャートは短期(10期間)と中長期(50期間)の移動平均線を表示してあります。中長期移動平均線が上向きなので、中長期的に上昇トレンドが発生中であることが分かります。その中で黄色い円で囲んだ局面では、価格が短期移動平均線を下回って推移しています。

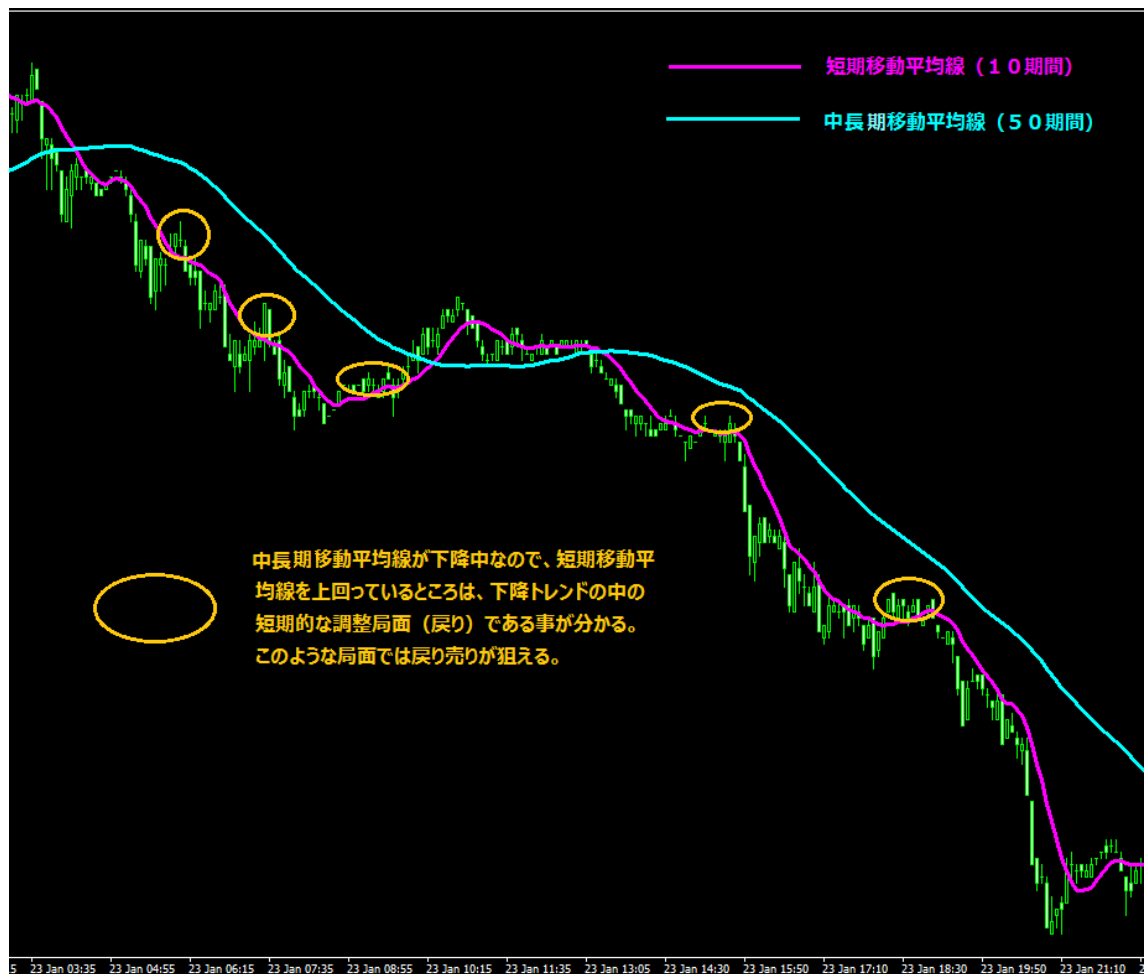
利益をたたき出すトレードルールの作り方



このような局面では、短期移動平均線だけでは、これが上昇トレンドの中の調整の下降局面なのか、上昇トレンドが終息して、下降トレンドへ転換したのか判然としません。しかし、中長期移動平均線を同時に表示することで、このような局面は、**中長期的な上昇トレンドの中の調整の下降局面 (押し目)** であることが分かり、よって、このような局面では**押し目買いを狙うのが有効なトレード方法**となります。

下のチャートは短期(10期間)と中長期(50期間)の移動平均線を表示してあります。中長期移動平均線が下向きなので、中長期的に下降トレンドが発生中であることが分かります。その中で黄色い円で囲んだ局面では、価格が短期移動平均線を上回って推移しています。

利益をたたき出すトレードルールの作り方



このような局面では、短期移動平均線だけでは、これが下降トレンドの中の調整の上昇局面なのか、下降トレンドが終息して、上昇トレンドへ転換したのか判然としません。しかし、中長期移動平均線を同時に表示することで、このような局面は、**中長期的な下降トレンドの中の調整の上昇局面(戻り)**であることが分かり、よって、**戻り売りを狙うのが有効なトレード方法**となります。

2-5. ティンド転換の判断

更に、2本の移動平均線を表示することで、トレンド転換の判断が簡単に行えるようになります。

上昇トレンドから下降トレンドへ転換する場合、実勢価格が中長期移動平均線の下で推移することで、最終的には短期移動平均線が中長期移動平均線を下抜けてトレンド転換が起こ

利益をたたき出すトレードルールの作り方

ります。たとえば、次のように移動平均線と実勢価格の並びが変化することになります。

- ① 上昇トレンド：実勢価格＞短期移動平均線＞中長期移動平均線
- ② 調整の下降局面：短期移動平均線＞実勢価格＞中長期移動平均線
- ③ 転換の前段階：短期移動平均線＞中長期移動平均線＞実勢価格
- ④ 下降トレンド：中長期移動平均線＞短期移動平均線＞実勢価格

また、下降トレンドから上昇トレンドへ転換する場合、実勢価格が中長期移動平均線の上で推移することで、最終的には短期移動平均線が中長期移動平均線を上抜けてトレンド転換が起こります。

たとえば、次のように移動平均線と実勢価格の並びが変化することになります。

- ① 下降トレンド：中長期移動平均線＞短期移動平均線＞実勢価格
- ② 調整の上昇局面：中長期移動平均線＞実勢価格＞短期移動平均線
- ③ 転換の前段階：実勢価格＞中長期移動平均線＞短期移動平均線
- ④ 上昇トレンド：実勢価格＞短期移動平均線＞中長期移動平均線

2-6. 移動平均線を使ったトレード方法

以上の事から、移動平均線を使った基本的なトレード方法は、次のようになります。

《上昇トレンドにおける順張り買いの仕掛け方》

- ① 短期移動平均線が上向き
- ② 中長期移動平均線が上向き
- ③ それまでの高値を更新したところで買い

《上昇トレンドにおける押し目買いの仕掛け方①》

- ① 中長期移動平均線が上向き
- ② 短期移動平均線付近まで下がってきた時に買う

《上昇トレンドにおける押し目買いの仕掛け方②》

- ① 中長期移動平均線が上向き
- ② 短期移動平均線を一旦下回って、その後、再浮上して同線を上抜けたら買う

《下降トレンドにおける順張り売りの仕掛け方》

- ① 短期移動平均線が下向き

利益をたたき出すトレードルールの作り方

- ② 中長期移動平均線が下向き
- ③ それまでの安値を更新したところで売る(順張り売り)

《下降トレンドにおける戻り売りの仕掛け方①》

- ① 中長期移動平均線が下向き
- ② 短期移動平均線付近まで上がってきた時に売る(戻り売り)

《下降トレンドにおける戻り売りの仕掛け方②》

- ① 中長期移動平均線が下向き
- ② 短期移動平均線を一旦上回って、その後、再下落して同線を下抜けたら売る